

本時のねらい

・つくった短歌を読み合い、表現の工夫などについて意見を交流し、自分の作品を推敲する。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・Google スプレッドシートの共同編集機能を活用することで、学習に苦手意識のある生徒でもクラスメイトの作業を見ながら進めることができる。
・ロイノートで短歌を作成することにより、何度も書き直すことができる。
・他者の作品を見ることができ、自分の作品と比べて推敲することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ロイノート ・Google スプレッドシート ・大型モニター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターに提示した本時のめあてや学習の流れを確認する。 ・めあて「作品を読み合い、表現の工夫などについて意見交流をする」 ・学習の流れ ①スプレッドシートで短歌を作成する。 ②作成した短歌をロイノートで提出する。 ③提出した短歌をお互いに鑑賞し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてと流れを 1 人 1 台端末へも配信し、生徒がいつでも確認できるようにする。
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・Google スプレッドシートに短歌の題材となる出来事を書き出す。【写真 1】 ・短歌を作成し、ロイノートの提出箱に提出する。 ・作成した短歌をお互いに鑑賞し合う。【写真 2】 A: いいね! B: こころどうなの? C: こうしたらどう? の三つの観点で、例えば「A: 夏の風景を想像することができていいと思った。 B: 仲間とともに何をすることが分かった。 C: もう少し分かりやすい言葉を入れたいと思った。」などと批評し合い、自分の短歌を推敲する。【写真 3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google スプレッドシートの共同編集機能を活用することで他者の作業シートを参照する。 ・提出された短歌を回答共有し、お互いの作品を鑑賞する。 ・ロイノートのシンキングツールを使用し、他者の短歌を鑑賞して感じたことを記入する。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイノートで配付した振り返りシートにより、本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを配付する。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】短歌の題材を書き出す Google スプレッドシート



【写真 2】作成した短歌を相互鑑賞している様子



【写真 3】記入された批評の内容を確認している様子。

児童生徒の反応や変容

・Google スプレッドシートの共同編集機能を活用することにより、生徒全員が授業に参加することができた。
・1 人 1 台端末を使用し、いつでも他の生徒が創作した短歌を鑑賞するとともに、お互いに交流して学んだことを自身の学びに振り返る姿があった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・1 人 1 台端末を活用することで、生徒の思考を可視化することができ、困っている生徒への声かけがしやすくなった。
・生徒の考えを即時に共有することで、生徒同士が相互に参照することができたことで、クラス全員が授業に参加でき、生徒主体の学びを展開することができた。
・批評を文字にして共有することで、短歌の作成者の思考がより深まり、自然と自分の作品へフィードバックすることができた。